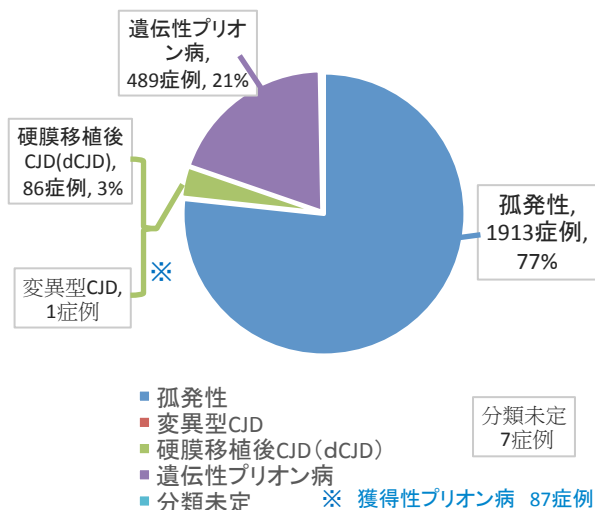


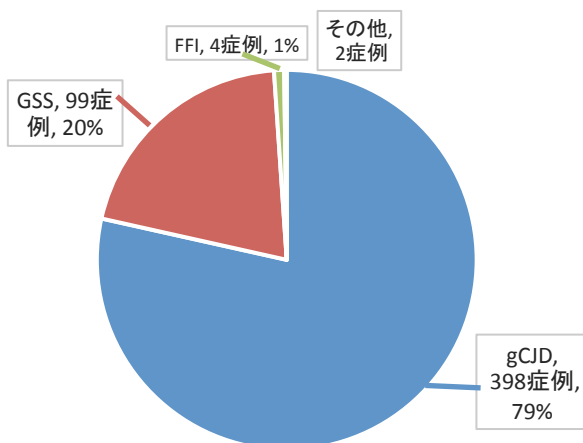
わが国のプリオン病のサーベイランス結果(～2015年9月)

研究分担者：国立精神・神経医療研究センター病院 水澤英洋

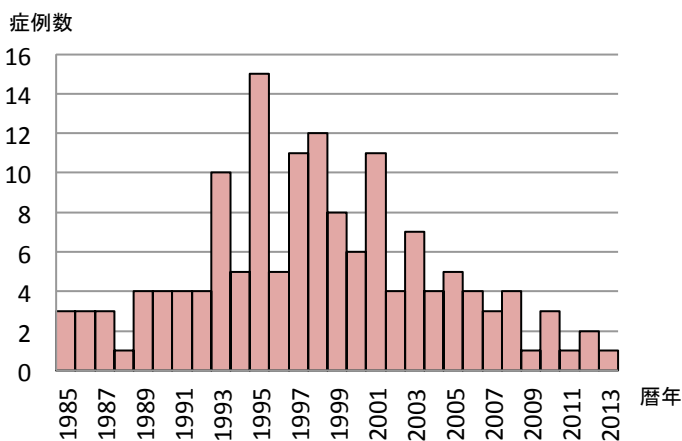
1 わが国における2499例のプリオン病症例の分類



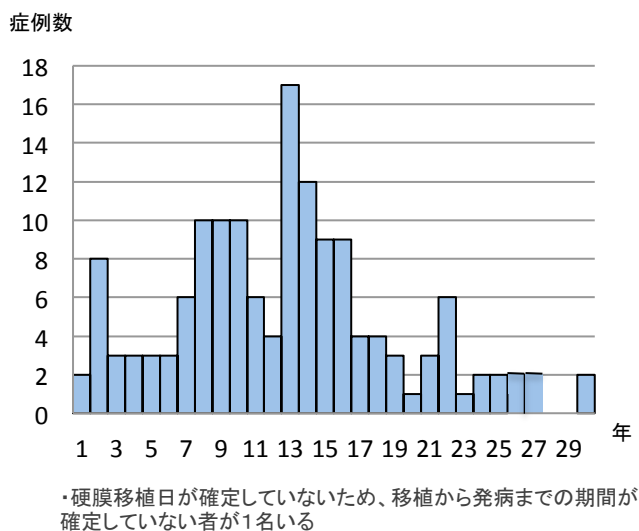
2 遺伝性プリオン病の分類



3 硬膜移植歴を有するクロイツフェルト・ヤコブ病患者 149人の発病年の分布



4 硬膜移植歴を有するクロイツフェルト・ヤコブ病患者 148人の移植から発病までの期間の分布



解説

1. CJDサーベイランス委員会は、平成27年9月15日までに合計2488例のプリオン病を同定した。病型別にみると孤発性CJDが1913例(76.8%)、遺伝性プリオン病が489例(21.0%)、硬膜移植後CJDが86例3.4例、変異型1例(0.04%)であった。
2. 遺伝性プリオン病の変異別頻度は、V180I、P102L、E200K、M232R、他の順であった。
3. 硬膜移植後CJDの発生は減少傾向にある。硬膜移植後から、発症までの年数の最長は30年であった。